

Gaia10 ネットワーク版インストール FAQ

目次

1.Windows のログオンユーザーを確認する	2
2.インストール前のネットワーク確認事項	3
3-1.Gaia10 がすでにインストールされている場合	4
■サーバー・クライアントのシステム更新	4
■データ更新	5
3-2.BeingCabinet がすでにインストールされている場合	7
4.インストール時の注意	7
■ポート番号について	7
■他社製品について	8
■データのバックアップについて	8
■アンインストールについて	8
5.Gaia10 初期導入手順	9
6.Gaia10 ネットワーク版の注意事項	9
■データ更新の注意事項	9
7.Gaia10 スタンドアロン版からのデータ移行の制限事項	9
8.Gaia10 にて Gaia9 または GaiaRX のデータを使用する	10
9.プロテクトドライバをインストールする	13
■プロテクトドライバを個別にインストールする	13
■プロテクトドライバを手動でインストールする(セットアップメニューからインストールできない場合)	14
10.SQL Anywhere 9 を個別にインストール	17
11.ダウンロード手順	17
12.よくあるエラー	23
13.ご使用時の注意事項	26
14. BeingCabinet の使用について	28
15.インターネットプロテクトについて	30
■お客様ご契約情報について	30
■ライセンスの返却について	31

1. Windowsのログオンユーザーを確認する

インストールを行う場合、Windows のログオンユーザーに Administrator 権限が必要です。
必ず Administrator 権限を持つユーザーでログオンし、インストールを行って下さい。

- ① Windows の [コントロールパネル] - [システムとセキュリティ]
- [管理ツール] をダブルクリックします。

<コントロールパネルを開く>

(Windows10 の場合)

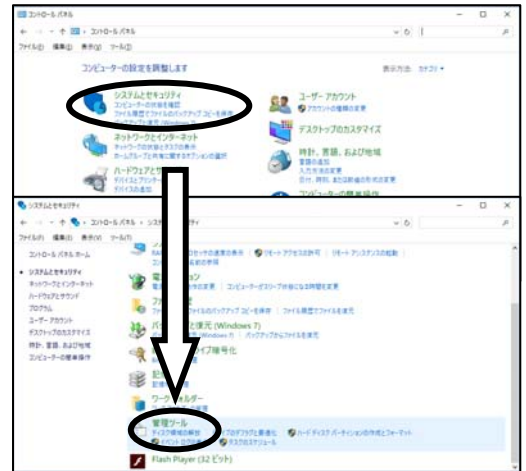
[スタート] ボタンを右クリックし、[検索] をクリックします。検索ボックスに「コントロールパネル」と入力して、[コントロールパネル] を選択します。

(Windows8.1 の場合)

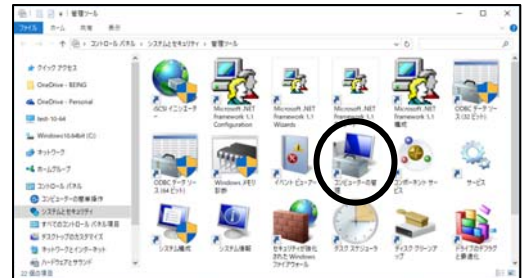
画面の右端からスワイプし、[検索] をタップします(マウスを使っている場合は、画面の右上隅をポイントしてマウスポインターを下へ移動し、[検索] をクリックします)。検索ボックスに「コントロールパネル」と入力し、[コントロールパネル] をタップクリックします。

(Windows7 の場合)

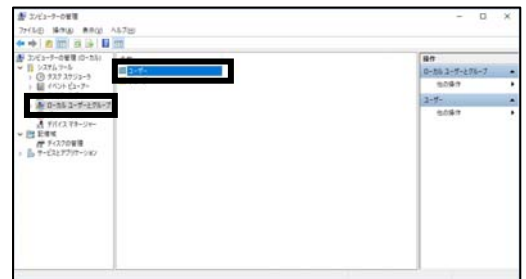
[スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。



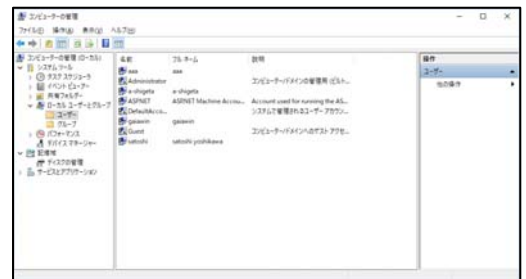
- ② 「管理ツール」画面が表示されます。
[コンピュータの管理] をダブルクリックします。



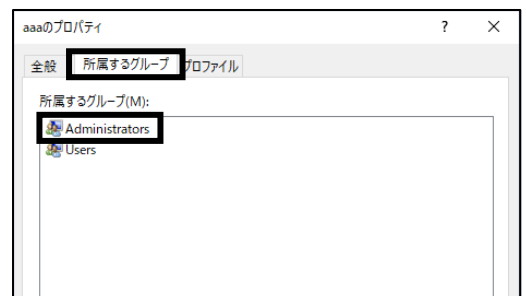
- ③ 「コンピュータの管理」画面が表示されます。
画面左側の「ローカルユーザーとグループ」をクリックし、画面右側の
[ユーザー] をダブルクリックします。



- ④ 確認したいユーザーの名称をダブルクリックします。



- ⑤ 「プロパティ」画面が表示されます。
「所属するグループ」タブをクリックし、Administrator 権限を持つ
グループに所属しているかを確認して下さい。



2. インストール前のネットワーク確認事項

インストールを行う前に、サーバー機、クライアント機それぞれに必ず確認を行って下さい。

サーバー管理者にご確認のうえ、行って下さい。

コマンドプロンプトにて Ping コマンドを使うことによって、サーバーとクライアント間のネットワーク接続自体に問題がないかを確認します。

■ 確認方法

<<Gaia10 のサーバー機の場合>>

BeingCabinet 工事書庫サーバーとのネットワーク接続を確認します。

以下のサーバーのコンピュータ名にて、「***」に BeingCabinet 工事書庫サーバー名を入力してご確認下さい。

<<Gaia10 のクライアント機の場合>>

BeingCabinet 工事書庫サーバーと Gaia10 サーバーのネットワーク接続を確認します。

以下のサーバーのコンピュータ名にて、「***」に BeingCabinet 工事書庫サーバー名、Gaia10 サーバー名を入力してご確認下さい。

※BeingCabinet 工事書庫サーバー名と Gaia10 サーバー名が異なる場合は 2 回 Ping コマンドでの確認が必要です。

Windows の[スタート]–[プログラム]–[アクセサリ]–[コマンドプロンプト]を起動し、キーボードから「ping -4 ***」(*** =サーバーのコンピュータ名) (ping の後、-4 の後には半角スペースが入ります。) と入力し、[Enter]キーを押します。

```
Microsoft Windows [Version 10.0.15063]
(c) 2017 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\gaiawin>ping -4 test-10-64

test-10-64 [192.168.10.62]に ping を送信しています 32 バイトのデータ:
192.168.10.62 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128
192.168.10.62 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128
192.168.10.62 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128
192.168.10.62 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128

192.168.10.62 の ping 統計:
    パケット数: 送信 = 4、受信 = 4、損失 = 0 (0% の損失)、
ラウンド トリップの概算時間 (ミリ秒):
    最小 = 0ms、最大 = 0ms、平均 = 0ms

C:\Users\gaiawin>
```

例)サーバー機のコンピュータ名が「test-10-64」の場合

①「Ping request could not find host test-10-64. Please check the name and try again.」と書かれている場合、ファイアウォールソフトにより使用できない状態で、入力した名称のコンピュータと接続できていないことを示します。

クライアント機の名称・ネットワーク環境をご確認下さい。

※メッセージ内容は異なる場合があります。

②メッセージが表示された場合、サーバーと正しく通信できています。

サーバーの IP アドレスが正しく表示されているかを、ネットワーク管理者にご確認下さい。

IP アドレスに間違いがある場合は、DNS による名前解決が正しく行われていない可能性があります。

ネットワーク管理者にご相談して下さい。

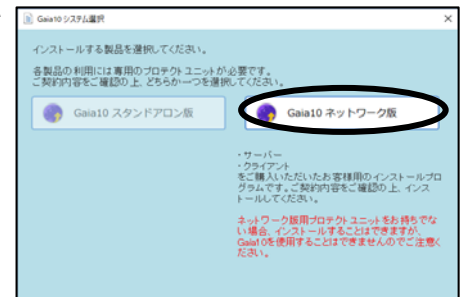
3-1. Gaia10がすでにインストールされている場合

■ サーバー・クライアントのシステム更新

DVDドライブに「Gaia10」のDVDを入れます。DVDが読み込まれると、「Gaia10 インストールディスク選択メニュー」画面が表示されますので、「Gaia10 システム」を選択します。



「Gaia10 システム選択」画面が表示されますので、「Gaia10 ネットワーク版」を選択します。



「積算システム インストール」画面が表示されます。
[サーバー]または[クライアント]をクリックします。
新規インストールと同様の手順にて、システム更新を行います。



● プロテクトの確認

BeingCabinet サーバーのコンピュータに「Cabinetライセンス」プロテクトが装着されていることをご確認ください。

※「エラー12 Calling Sproinitialize」というメッセージが表示される場合「[9.プロテクトドライバをインストールする\(P.13\)](#)」をご参照のうえ、古いバージョンのプロテクトドライバを削除してから、USB プロテクトドライバのインストールを行って下さい。その後、Gaia10 のインストールを行って下さい。

<DVD が自動起動しない場合>

Windowsのスタートボタンを右クリックから[エクスプローラ]をクリックします。

DVDドライブを選択し、「Gaia10」のDVDの中の「Setup.hta」をダブルクリックすると、「Gaia10 インストールディスク選択メニュー」が起動します。

■ データ更新

DVDドライブに「Gaia10」のDVDを入れます。DVDが読み込まれると、「Gaia10 インストールディスク選択メニュー」画面が表示されますので、「Gaia10 地域データ」を選択します。

<データ更新 DVD が自動起動しない場合>

Windowsのスタートボタンを右クリックから[エクスプローラ]をクリックします。

DVDドライブを選択し、「Gaia10」のDVDの「地域データ」フォルダ内の「DataSetup」をダブルクリックすると、「データ更新ツール」が起動します。



「データ更新ツール」が起動します。

◆Gaia10クライアントでは、システム、Excel帳票、設計書入出力オプションの様式のみ更新できます。

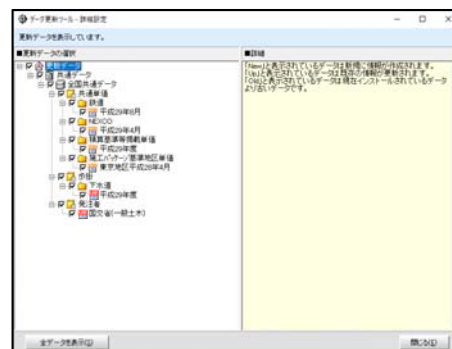
※Gaia10サーバーは、全てのデータを更新できます。



①「詳細設定」画面について

データ更新を行う際、必要に応じて詳細設定を行うことができます。

- ・「データ更新ツール」画面にて、[詳細]をクリックすると、右図の「詳細設定」画面が表示されます。
- ・画面左側のツリーでデータの年度を選択すると、画面右側の「詳細」欄に選択したデータの詳細が表示されます。
- ・[全データを表示]をクリックすると、既存のデータを含め、全データが表示されます。
- ・[未更新データのみ表示]をクリックすると、更新対象データのみが表示されます。
- ・画面左側のツリーにて、更新が必要なデータを選択し、[閉じる]をクリックします。



②Gaia10サーバーにデータ更新を行う場合のみ、「お客様の編集されたデータを保護する」の選択が表示されます。

(※Gaia10クライアントを更新する場合は表示されません。)

編集したデータを保護したい場合は、必ず、画面左下の[お客様の編集されたデータを保護する]にチェックを付けた状態で、[実行]をクリックします。詳しくは、下記「お客様の編集されたデータを保護する」について」をご参照下さい。

③[実行]をクリックします。

データ更新後、データ共有のため更新したデータを、BeingCabinetに保存する場合[保存する]をクリックして下さい。お使いのマシンで、保存が必要なデータすべてをBeingCabinetに保存します。保存する必要がない場合は、[終了]をクリックします。

すべての保存処理が完了すると、「BeingCabinetへの更新データの保存が完了しました。」の画面が表示されます。



注意点

◆「お客様の編集されたデータを保護する」について

「お客様の編集されたデータを保護する」にチェックを付けることで、お客様が登録・編集したデータを残しておくことができます。この項目にチェックを付けた場合、年度を追加する場合と年度を上書きする場合とで保護される内容が異なります。

また、「弊社提供の登録表についてもお客様の編集を保護する」にチェックを付けると、弊社提供の登録表(単価登録の単価表、および工種登録の表)についてもお客様の編集内容が保護され、最新のデータに更新されません。

※チェックの有無に関わらず、見積単価・見積歩掛・積算根拠は保護されます。

追加する年度には、 のマークが付きます。上書きする年度には、 のマークが付きます。

●データの各モードについて

- ・ユーザーモード…お客様が作成したデータ(No 欄の数字が黒色のデータ)
- ・ビーイングモード…ビーイングが作成したデータ(No 欄の数字が青色のデータ)
- ・代理店モード…ビーイングおよび代理店で作成したデータ(No 欄の数字が紫色のデータ)

保護する対象内容	年度追加	年度上書き
単価登録		
フォルダ		
フォルダの作成	すべてのモードのフォルダが保護されます。	すべてのモードのフォルダが保護されます。
フォルダの名称などの訂正	ユーザーモードのフォルダのみ訂正した内容が保護されます。	すべてのモードのフォルダを訂正した内容が保護されます。
単価項目		
単価項目の新規作成	すべてのモードの単価項目が保護されます。	すべてのモードの単価項目が保護されます。
単価項目の名称などの訂正	ユーザーモードの単価項目のみ訂正した内容が保護されます。	すべてのモードの単価項目を訂正した内容が保護されます。
単価項目の金額の訂正	ユーザーモードのお客様が作成した単価項目の金額と、お客様が作成したブロック、地区の金額のみ保護されます。	すべてのモードのお客様が作成した単価項目の金額と、お客様が作成したブロック、地区の金額が保護されます。
単価表の作成	すべてのモードの単価表が保護されます。	すべてのモードの単価表が保護されます。
単価表の表内の編集	ユーザーモードの単価表のみ編集した内容が保護されます。	すべてのモードの単価表を編集した内容が保護されます。
損料登録		
フォルダ		
フォルダの作成	すべてのモードのフォルダが保護されます。	すべてのモードのフォルダが保護されます。
フォルダの名称などの訂正	ユーザーモードのフォルダのみ訂正した内容が保護されます。	すべてのモードのフォルダを訂正した内容が保護されます。
単価項目		
単価項目の新規作成	すべてのモードの単価項目が保護されます。	すべてのモードの単価項目が保護されます。
単価項目の名称などの訂正	ユーザーモードの単価項目のみ訂正した内容が保護されます。	すべてのモードの単価項目を訂正した内容が保護されます。
単価項目の金額の訂正	ユーザーモードのお客様が作成した単価項目の金額と、お客様が作成したブロック、地区の金額のみ保護されます。	すべてのモードのお客様が作成した単価項目の金額と、お客様が作成したブロック、地区の金額が保護されます。
工種登録		
フォルダ		
フォルダの作成	すべてのモードのフォルダが保護されます。	すべてのモードのフォルダが保護されます。
フォルダの名称などの訂正	ユーザーモードのフォルダのみ訂正した内容が保護されます。	すべてのモードのフォルダを訂正した内容が保護されます。
工種登録の表		
表の作成(自動積算の実行)	すべてのモードの表が保護されます。	すべてのモードの表が保護されます。
表の表内の編集	ユーザーモードの表のみ編集した内容が保護されます。	すべてのモードの表を編集した内容が保護されます。
単価管理		
ブロックの作成	すべてのモードのブロックが保護されます。	すべてのモードのブロックが保護されます。
ブロック名の変更	すべてのモードの変更したブロック名が保護されます。	すべてのモードの変更したブロック名が保護されます。
地区の作成	すべてのモードの地区が保護されます。	すべてのモードの地区が保護されます。
地区名の変更	すべてのモードの変更した地区名が保護されます。	すべてのモードの変更した地区名が保護されます。
年度名称の変更	-	すべてのモードの変更した年度名称が保護されます。

3-2. BeingCabinetがすでにインストールされている場合

古いバージョンの BeingCabinet がすでにインストールされている場合、バージョンアップを行う必要があります。

DVDドライブに「Gaia10」のDVDを入れます。DVDが読み込まれると、「Gaia10 インストールディスク選択メニュー」画面が表示されますので、「BeingCabinet」を選択します。



<「積算システム インストールディスク選択

メニュー」画面が自動起動しない場合>

Windowsのスタートボタンを右クリックから[エクスプローラ]をクリックします。
「Gaia10」の DVD 中の「BeingCabinet」フォルダ内の「Setup.exe」をダブルクリックすると、「BeingCabinet セットアップ」画面が起動します。

「BeingCabinet セットアップ」画面が表示されます。

[次へ]をクリックします。

以降の手順は、Gaia10 ネットワーク版インストールマニュアルの

「BeingCabinet サーバー、Gaia10 サーバーの設定 (P.8)」をご参照下さい。



4. インストール時の注意

■ ポート番号について

パーソナルファイアウォール等の設定がされている場合は、サーバー管理者にご確認のうえ、下記のポートの制限を解除して下さい。制限を解除しても問題が解消できない場合は、弊社サポートセンターまでお問い合わせ下さい。

Gaia10 サーバー側

NO	ポート	プロトコル	通信方向	用途
1	80, 443	TCP	送信	ダウンロード、インターネットプロテクト
2	25	TCP	送信	メール送信 ※機能を有効にしている時のみ
3	2638,49152~49170	TCP/UDP	送信	データベースのアクセス
4	80(8080、8008) ※参照	TCP	送信	BeingCabinet/Gaia10 サーバー通信
5	49998,49999	TCP	送受信	メッセージの送受信
6	2638,49152~49170	TCP/UDP	受信	データベースのアクセス
7	80(8080、8008)	TCP	受信	BeingCabinet
8	1024~65535	TCP	受信	サーバー通信

Gaia10クライアント側

NO	ポート	プロトコル	通信方向	用途
1	80, 443	TCP	送信	ダウンロード、インターネットプロテクト
2	25	TCP	送信	メール送信 ※機能の有効にしている時のみ
3	2638,49152~49170	TCP/UDP	送信	データベースのアクセス
4	80(8080, 8008) ※参照	TCP	送信	BeingCabinet/Gaia10 サーバー通信
5	49998,49999	TCP	送受信	メッセージの送受信
6	2638,49152~49170	TCP/UDP	受信	データベースのアクセス
7	1024~65535	TCP	受信	サーバー通信

※ (8080)・・・80が使われていた場合の第2優先

※ (8008)・・・80が使われていた場合の第3優先

■ 他社製品について

Gaia10 ではデータベースとして Sybase, Inc. の「SQL Anywhere」、エンバカデロ・テクノロジーズ社の「Borland DataBase Engine」を使用しています。インストール時に以下の製品がインストールされます。詳細については各製品のオンラインヘルプまたは README ファイルをご覧ください。

- ・ SQL Anywhere Studio 9.0.2
以上の製品の著作権は Sybase, Inc. が所有しています。
- ・ Borland Database Engine
以上の製品の著作権はエンバカデロ・テクノロジーズ社が所有しています。
- ・ UNLHA32.DLL
UNLHA32.DLL は Micco 氏のフリーソフトウェアです。
- ・ UnZip32.DLL
UnZip32.dll Copyright (C) 1990-2002 Info-ZIP. All Rights Reserved.
- ・ ファイルのプレビューにおいて、アドバンスソフトウェア株式会社の著作物である「VB-Report Ver3.0 (ActiveX 版)」を再配布条件に基づき使用しています。

■ 注意点

- ◆ Gaia10 に付属する SQL Anywhere は、Gaia10 以外の用途に使用することは認められていません。
- ◆ Gaia10 以外の用途に使用される場合は、別途 SQL Anywhere のパッケージをお買い上げ下さい。
また、不正使用によるトラブルは、当社は一切責任を負わないものとします。ご了承下さい。

■ データのバックアップについて

お客様が作成されたデータは定期的にバックアップをお取り下さい。

ハードディスクの障害等でデータが破損した場合、単価データ、工種データ等は、インストール用 DVD から出荷時の状態に復旧できますが、お客様が入力された単価データ・工種データ等は消えてしまいます。また、積算された工事データは DVD からは復旧できません。

工事のバックアップは、「工事名表」の[工事を保存]メニューを、その他のデータについては「起動メニュー」から[データ管理]を起動し、「データを保存」をお使い下さい。

また、「起動メニュー」から[ユーザーサポート]を起動し、「データベースユーティリティ」にてデータベースファイルごとバックアップすることも可能です。

詳しくは、Gaia10 のオンラインヘルプをご覧ください。

■ アンインストールについて

Gaia10 サーバー、Gaia10 クライアントのアンインストールでは、データベースファイルは削除されません。アンインストール後、同じディレクトリに再インストールを行った場合、既存(アンインストールされずに残っている)のデータベースをそのまま使用することが可能です。

5. Gaia10 初期導入手順

Gaia10 導入時に行う作業をご説明します。Gaia10 のインストールを行ってから、積算を行うまでに、この初期導入手順を元に各種設定、登録を行っておくと、スムーズに積算を開始することができます。あくまでも参考手順ですので、必ずこの手順に従わなければいけないということではございません。

① 会社情報の登録を行って下さい。

<<Gaia10 サーバーの場合>>

「工事名表」画面にて、メニューバーの[ツール]－[会社情報を設定]をクリックします。「プロパティ」画面が表示されますので、必要な項目を入力し[OK]をクリックして下さい。

<<Gaia10 クライアントの場合>>

「工事名表」画面にて、メニューバーの[ツール]－[会社情報を設定]をクリックします。「プロパティ」画面が表示されますので、必要な項目を入力し[OK]をクリックして下さい。

② 土木工事積算システム Gaia9 または GaiaRX をお使いのお客様で、Gaia10で Gaia9またはGaiaRX のデータをお使いになる場合は、移行ツールで移行を行って下さい。

移行ツールの操作手順は、「[8.Gaia10 にて Gaia9 または GaiaRX のデータを使用する\(P.10\)](#)」をご参照下さい。

6. Gaia10 ネットワーク版の注意事項

■ データ更新の注意事項

単価、歩掛などのサーバー側でインストールするデータは、サーバーにてダウンロード、データ更新を行う必要があります。

クライアントから、ダウンロード、データ更新を行うことはできません。

また、クライアントでは「データ管理」が起動できないため、年度作成、地区作成、マスタ登録、データの保存、データの読込なども行うことができません。

7. Gaia10 スタンドアロン版からのデータ移行の制限事項

Gaia10 ネットワーク版のインストールの際に Gaia10 スタンドアロン版のデータを移行できますが、以下の制限があります。

移行先	データ項目								印刷フォーム
	マスタ	単価	歩掛	経費	工事	ユーザー管理	単語リスト	オプ（工種履歴 設計書入出 シヨウシ）	
Gaia10 サーバー	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Gaia10 クライアント	×	×	×	×	○	×	×	×	○

○：移行できます。 ×：移行できません。

・Gaia10 スタンドアロン版から Gaia10 クライアントへのデータの移行は、工事データ・印刷フォーム・Excel 帳票のみ移行できます。※単価や歩掛、単価履歴などのデータは Gaia10 クライアントへの移行はできません。

・以下のような各種設定は、スタンドアロン版から Gaia10 ネットワーク版へ移行できませんので、ご注意下さい。

- 「工事名表」画面 …… 「表示」メニューの「文字のサイズ」
「設定」メニューの「表示色の設定」
「設定」メニューの「終了時の自動格納」
- 「単価・工種登録」画面 …… 「表示」メニューの「名称・規格列を固定する」
「お気に入り」メニュー

・Gaia10 ネットワーク版にて各種設定を個別に行ってください。

8. Gaia10 にて Gaia9 または GaiaRX のデータを使用する

移行ツールを使用して、Gaia9 または GaiaRX のデータを Gaia10 へ移行します。

※必ずしも行わなくてはならない手順ではありません。

※Gaia9 と GaiaRX の移行手順は同じですので、Gaia9 から Gaia10 に移行する方法をご案内します。

注意点

◆下記のケースに該当する場合は、移行ツールは起動できません。

- ・同一のパソコンに Gaia10 と Gaia9 または GaiaRX がインストールされていない場合
- ・Gaia10 のプロテクトではない場合
- ・Gaia9 または GaiaRX と Gaia10 のインストール形態が異なる場合
(例: Gaia9 または GaiaRX がネットワーク版サーバーで Gaia10 がスタンドアロン版など)

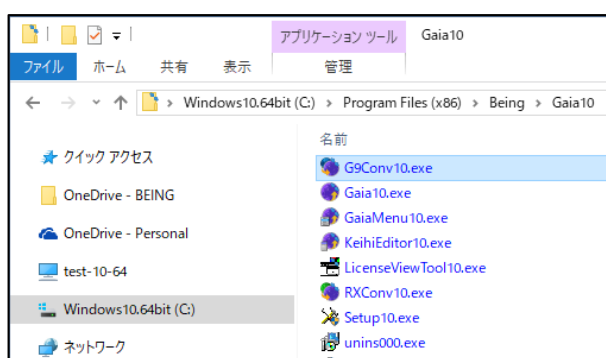
①移行ツールを起動します。

インストール先のドライブが C ドライブの場合、移行ツールは、「C:\Program Files\Being\Gaia10\G9Conv10.exe」

64ビット環境では、「C:\Program Files (x86)\Being\Gaia10」に格納されています。

G9Conv10.exe をダブルクリックして移行ツールを起動します。

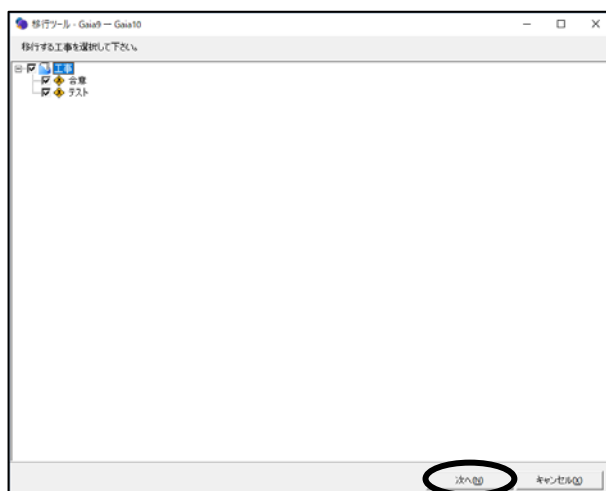
(GaiaRX では RXConv10.exe を使用します。)



②Gaia9 の工事を選択します。

移行したい工事にチェックを付けます。

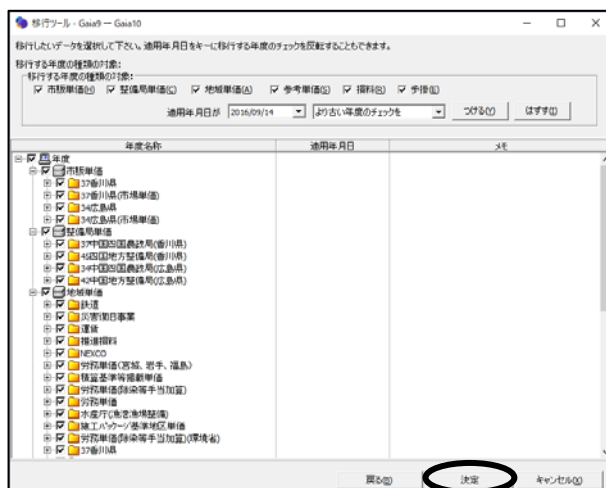
[次へ]をクリックします。



③年度を選択します。

Gaia9 で Gaia10 に移行したい年度にチェックを付けます。

[決定]をクリックします。



・移行できるデータは下表の通りです。

移行対象データ		移行ツール	
BeingCabinetのデータ	工事	×	
	ユーザー情報	×	
	工事、ユーザー情報以外のデータ	×	
Gaia9のデータ	工事	○※1	
	単価	○※1	
	見積単価	○	
	工種	○※1	
	見積歩掛	○	
	損料	○※1	
	経費	○	
	新土積	×	
	ユーザー情報	○	
	発注者情報	△※2	
	単価選択履歴	○	
	マスタ	単位マスタ	○
		業者マスタ	○
		落札業者マスタ	○
		要素マスタ	○
		丸めマスタ	○
		条件マスタ	○
		最低制限調査基準マスタ	○
		実行工種履歴	○
		自動積算丸めマスタ	○
		条件自動選択マスタ	○
		間接費紐付けマスタ	○
		諸雑費情報	○
		Excel帳票	×
フォームファイル	×		
オプション	○		
GaiaRXのデータ	工事	○※1	
	単価	○※1	
	工種	○※1	
	損料	○※1	
	経費	×	
	新土積	×	
	ユニットプライス	×	
	ユーザー情報	○	
	発注者情報	経費カスタマイズ以外	△※2
		経費カスタマイズ	×
	単価選択履歴	○	
	マスタ	単位マスタ	○
		業者マスタ	○
		落札業者マスタ	○
		要素マスタ	○
		丸めマスタ	○
		条件マスタ	○
		プライス条件マスタ	×
		最低制限調査基準マスタ	×
		実行工種履歴	○
		自動積算丸めマスタ	○
		諸雑費情報	○
	Excel帳票	×	
	フォームファイル	×	
オプション	○		

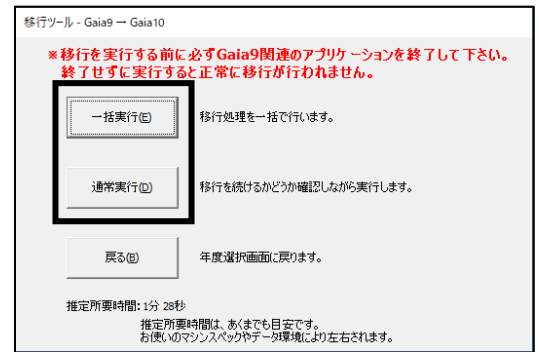
○…移行可能
 △…条件付で
 移行可能
 ×…移行不可

※1 移行時に、移行するデータの選択可

※2 ユーザー作成のみ上書き禁止で移行を行います

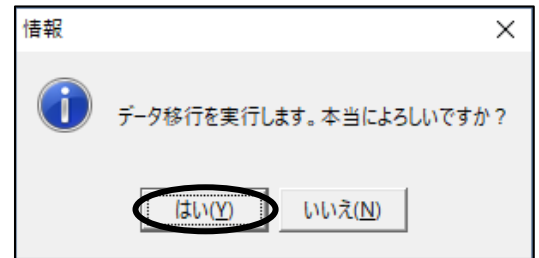
④実行モードを選択します。

[一括実行]・・・すべてのデータの移行処理を一括で行います。
[通常実行]・・・移行するデータが切り替わる時に、
移行を続けるかどうかの
確認メッセージが表示されます。



[一括実行]または[通常実行]をクリックすると、
右図の確認メッセージが表示されます。

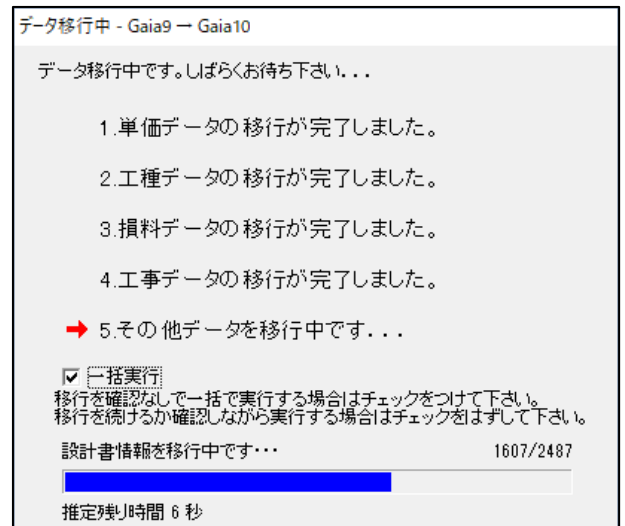
[はい]をクリックします。



⑤移行処理が行われます。

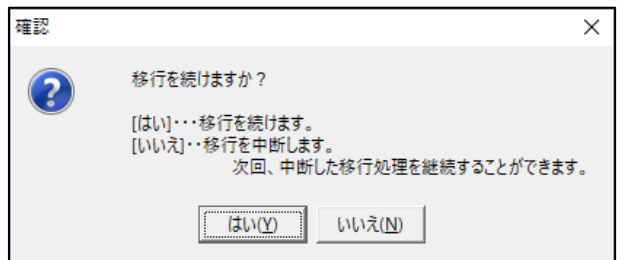
④で[一括実行]を選択した場合でも、「データ移行中」画面で
一括実行のチェックをはずすと、移行を続けるかどうかの確認
メッセージを表示することができます。

④で[通常実行]を選択した場合でも、「データ移行中」画面で
一括実行にチェックを付けると、確認メッセージを表示せずに
一括で処理することができます。

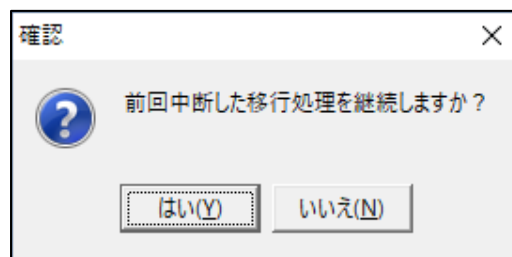


「通常実行」を選択した場合、移行処理が切り替わる
タイミングで右図の確認メッセージが表示されます。

[はい]をクリックすると、移行処理をそのまま続けます。
[いいえ]をクリックすると、移行処理を中断します。



[いいえ]をクリックし、移行処理を中断した場合、次回、移行ツールを起動すると、中断した処理を継続するかどうかの確認メッセージが表示されます。
 [はい]をクリックすると、手順④の実行モードを選択する画面が表示されます。
 「いいえ」をクリックすると、手順②の Gaia9 の工事を選択する画面が表示されます。



⑥右図のメッセージが表示されると、データの移行処理は完了です。



9. プロテクトドライバをインストールする

■ プロテクトドライバを個別にインストールする

通常の手順で Gaia10 のインストールを行っても USB プロテクトが認識されない場合に行います。
 「エラー12 Calling Sproinitialize」というメッセージが表示される場合にも、この手順を行って下さい。

インストールを行う場合は、ログオンユーザーに Administrator 権限が必要です。
 必ず Administrator 権限を持つユーザーでログオンし、インストールを開始して下さい。(P.2 参照)

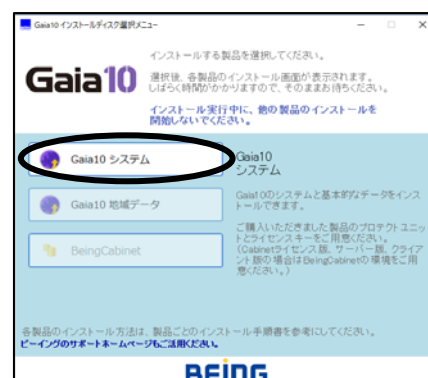
◆古いバージョンのプロテクトドライバがインストールされている場合は、削除を行ってからインストールして下さい。

◆古いバージョンのプロテクトドライバの削除方法

- ① Windows の [コントロールパネル] から [プログラムと機能] をダブルクリックします ([コントロールパネルを開く](#))。
- ② 一覧より「Sentinel System Driver」を選択します。
 (見当たらない場合は削除の必要はありません。)
- ③ [削除] または [アンインストール] をクリックします。

USB プロテクトは接続していない状態で下記手順を進めて下さい。

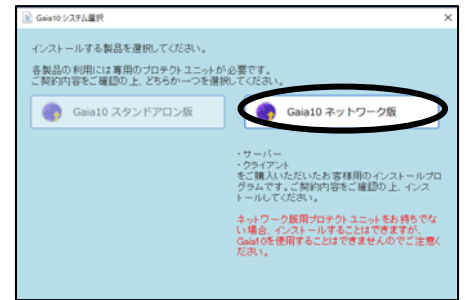
DVDドライブに「Gaia10」のDVDを入れます。DVDが読み込まれると、「Gaia10 インストールディスク選択メニュー」画面が表示されますので、[Gaia10 システム]を選択します。



「Gaia10 システム選択」画面が表示されますので、
[Gaia10 ネットワーク版]を選択します。

＜「積算システム インストールディスク選択
メニュー」画面が自動起動しない場合＞

[スタート]－[コンピュータ]を起動します
(Windows8以降の場合、[スタート]を右クリックから[エクスプローラ]をクリックします)。
「Gaia10」のDVDの中の「setup.hta」ファイルをダブルクリックすると、「積算システム インストールディスク選択メニュー」画面が起動します。



「積算システム インストール」画面が表示されます。

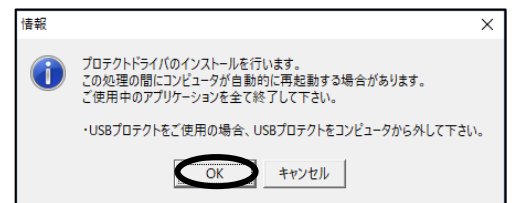


をクリックします。



右図のメッセージが表示されます。
[OK]をクリックすると、インストールを開始します。

再起動を促すメッセージが表示される場合には、コンピュータの再起動を行います。



プロテクトドライバのインストールが完了しましたら、コンピュータにプロテクトを接続して下さい。
その後、再起動を促すメッセージが表示された場合は、コンピュータを再起動して下さい。

セットアップメニューからインストールできない場合は、プロテクトドライバを手動でインストールします(「[■プロテクトドライバを手動でインストールする\(セットアップメニューからインストールできない場合\)\(P.14\)](#)」を参照)。

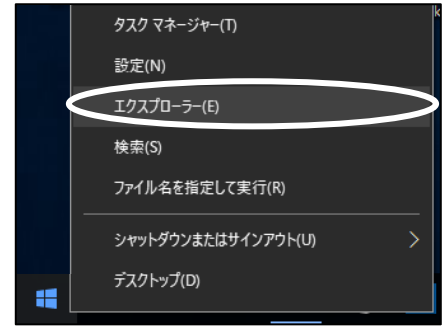
■ プロテクトドライバを手動でインストールする (セットアップメニューからインストールできない場合)

①DVDドライブに「Gaia10」のDVDを入れます。DVDが読み込まれると、「Gaia10 インストールディスク選択メニュー」画面が表示されます。

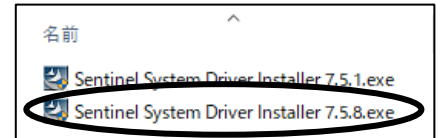
画面右上の  をクリックし、メニューを終了します。



②Windowsのスタートボタンを右クリックから[エクスプローラ]をクリックします。



③Gaia10 の DVD 中の「ネットワーク版」フォルダ内の「Sentinel」フォルダを開き、「Sentinel System Driver Installer 7.5.8.exe」のファイルをダブルクリックします。



「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。
[続行]をクリックすると、プロテクトのインストールを開始します。



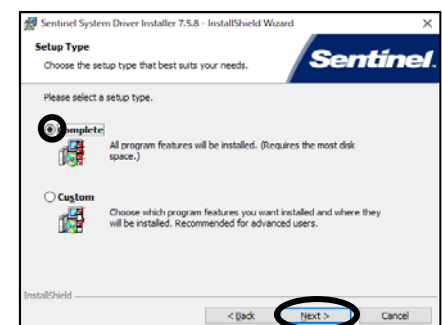
④右画面が表示されます。[Next]をクリックします。



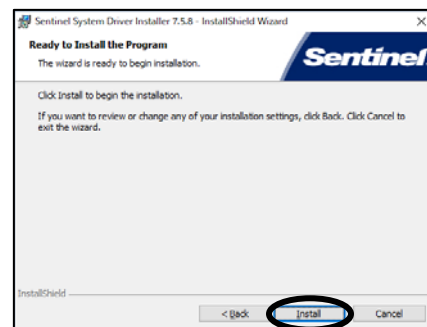
⑤「I accept the terms in the license agreement」を選択し、[Next]をクリックします。



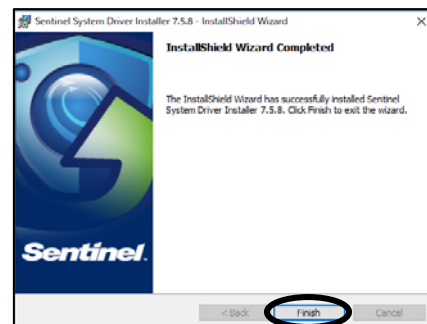
⑥「Complete」を選択し、[Next]をクリックします。



⑦ [Install] をクリックすると、ファイルコピーが始まります。

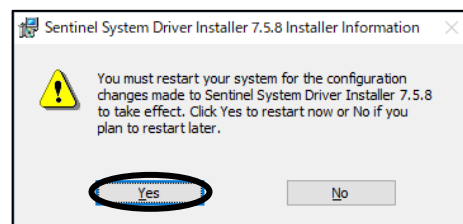


⑧ [Finish] をクリックします。



⑨ 英語で Windows の再起動の確認メッセージが表示される場合があります。
[Yes] をクリックします。(自動的にパソコンが再起動されます。)

- ◆ [No] をクリックした場合は、手でパソコンを再起動して下さい。
- ◆ 右画面が表示されない場合は、再起動の必要はありません。
次の手順に進んで下さい。



USB プロテクトを接続して、プロテクトのランプが点灯するか確認して下さい。
ランプが点灯した場合は自動的にインストールが始まり、完了します。

自動的にインストールが完了しない場合は、以下の手順を実行して下さい。

- ◆ プロテクトのランプが点灯しない場合
(機械の設定により、USB のサービスを使用できない状態である可能性があります。)
- 1. Windows を終了し、機械を再起動し、BIOS の設定画面を表示して下さい。
(BIOS の設定画面の表示方法はコンピュータの機種・メーカーによって異なります。コンピュータの取扱説明書等をご覧下さい。)
- 2. USB の使用可・不可の選択を表示させて、USB=Enabled という設定にして下さい。
(この設定もコンピュータの機種・メーカーによって異なりますのでコンピュータの取扱説明書等をご覧下さい。)

10. SQL Anywhere 9 を個別にインストール

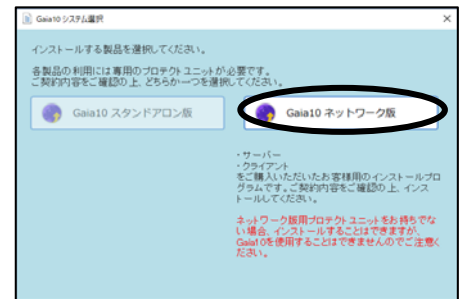
Gaia10 をインストールすると、SQL Anywhere 9 がインストールされます。
なんらかの理由で SQL Anywhere 9 をアンインストールした場合、個別に SQL Anywhere 9 をインストールすることができます。

DVDドライブに「Gaia10」のDVDを入れます。


DVDが読み込まれると、「Gaia10 インストールディスク選択メニュー」画面が表示されますので、[Gaia10 システム]を選択します。



「Gaia10 システム選択」画面が表示されますので、[Gaia10 ネットワーク版]を選択します。



「積算システム インストール」画面が表示されます。

 をクリックします。



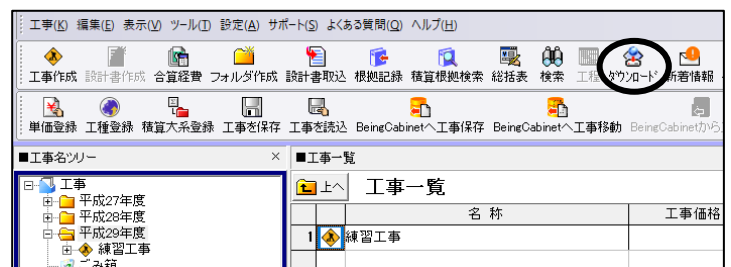
11. ダウンロード手順

工事名表のダウンロードメニューより、データの更新が行えます。

◆クライアントからのダウンロードでは、システムの更新と Excel 帳票のみ更新できます。

①「工事名表」画面にて、

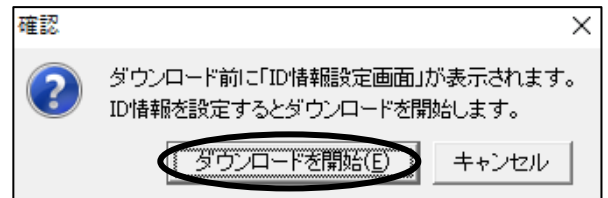
ツールバーの  をクリックします。



◆メニューバーの[サポート]－[ダウンロード]－[ダウンロード]でも同様です。

- ②ID 情報設定を行います。
 (インストール時に ID 情報の設定を行っていない場合)
 ※2回目以降のダウンロードを行う場合、
 この画面は表示されません。

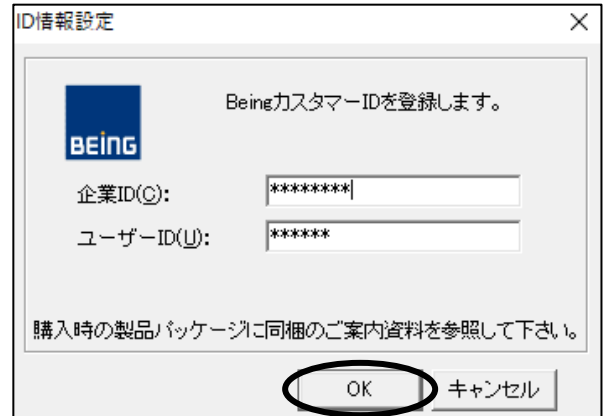
右図のメッセージが表示されます。
 [ダウンロードを開始]をクリックします。



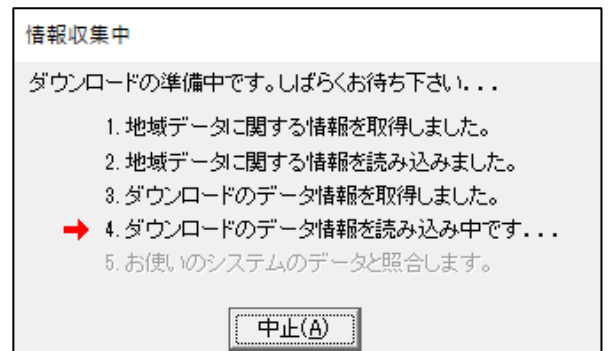
- ③「ID 情報設定」画面が表示されます。
 「企業 ID」、「ユーザーID」を入力し、[OK]をクリックします。

◆企業 ID、ユーザーID については、ご購入時にお渡しております「Being カスタマーID のご案内」にて、ご確認下さい。

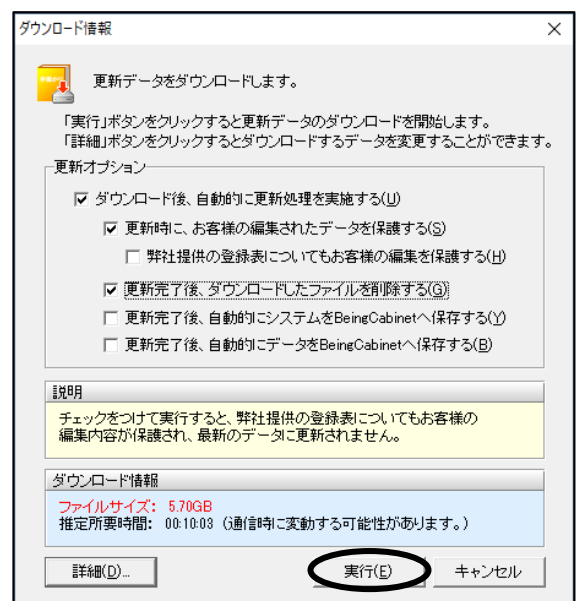
◆「工事名表」画面にて、メニューバーの[サポート]ー[ダウンロード]ー[ID 設定]をクリックでも、「ID 情報設定」画面が表示されます。



- ④右図の画面が表示されます。しばらくお待ち下さい。



- ⑤「ダウンロード情報」画面が表示されますので、
 「更新オプション」を設定し、[実行]をクリックします。



◆更新オプション

更新オプション	
①	<input checked="" type="checkbox"/> ダウンロード後、自動的に更新処理を実施する(U)
②	<input checked="" type="checkbox"/> 更新時に、お客様の編集されたデータを保護する(S)
③	<input type="checkbox"/> 弊社提供の登録表についてもお客様の編集を保護する(H)
④	<input checked="" type="checkbox"/> 更新完了後、ダウンロードしたファイルを削除する(Q)
⑤	<input type="checkbox"/> 更新完了後、自動的にシステムをBeingCabinetへ保存する(Y)
⑥	<input type="checkbox"/> 更新完了後、自動的にデータをBeingCabinetへ保存する(B)

①「ダウンロード後、自動的に更新処理を実施する」

「ダウンロード後、自動的に更新処理を実施する」にチェックを付けることで、ダウンロード後、自動でデータ更新処理を行います。

データ更新を行わない場合はチェックを外して下さい。

②「更新時に、お客様の編集されたデータを保護する」

「更新時に、お客様の編集されたデータを保護する」にチェックを付けることで、お客様が登録・編集したデータを残しておくことができます。

この項目にチェックを付けた場合、年度を追加する場合と、年度を上書きする場合とで保護される内容が異なります。

③「弊社提供の登録表についてもお客様の編集を保護する」

「弊社提供の登録表についてもお客様の編集を保護する」にチェックを付けることで、弊社提供の登録表についてもお客様の編集内容が保護され、最新のデータに更新されません。

④「更新完了後、ダウンロードしたファイルを削除する」

ダウンロードを行うと、データインストールフォルダ先の「Download」フォルダに保存されます。「更新完了後、ダウンロードしたファイルを削除する」にチェックを付けることで、データ更新を行った後で、ダウンロードしたファイルを自動で削除することができます。

⑤「更新完了後、自動的にシステムを BeingCabinet へ保存する」

「更新完了後、自動的にシステムを BeingCabinet へ保存する」にチェックを付けることで、データ更新を行った後で、更新されたシステムを自動で BeingCabinet に保存することができます。

(※BeingCabinet を使用しない場合、選択はできません。)

⑥「更新完了後、自動的にデータを BeingCabinet へ保存する」

「更新完了後、自動的にデータを BeingCabinet へ保存する」にチェックを付けることで、データ更新を行った後で、更新されたデータを自動で BeingCabinet に保存することができます。

(※BeingCabinet を使用しない場合、選択はできません。)

(※このチェックを付けると、自動的に「更新完了後、自動的にシステムを BeingCabinet へ保存する」が有効になります。)

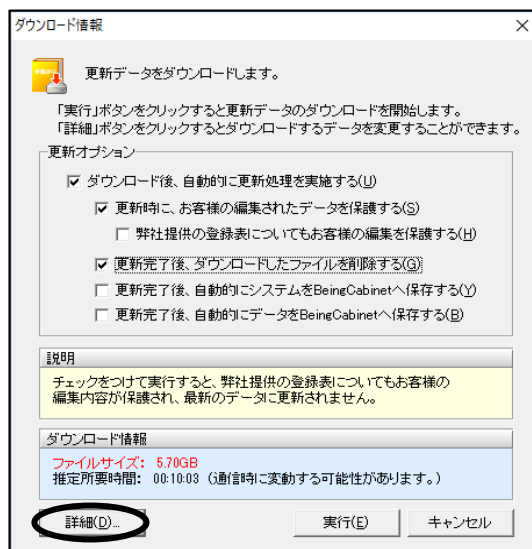
◆アップデートするデータの選択は、システムが自動的に検知して最適なチェックを行いますので、通常はそのまま[実行]をクリックして下さい。

「ダウンロード情報」画面左下の[詳細]をクリックすると、ダウンロードするデータを選択することができます。また、「工事名表」画面にて、メニューバーの[設定]－[対象地域設定]をクリックし、対象地域を選択することで、「ダウンロード－詳細設定」画面に表示する地域を制限することができます。

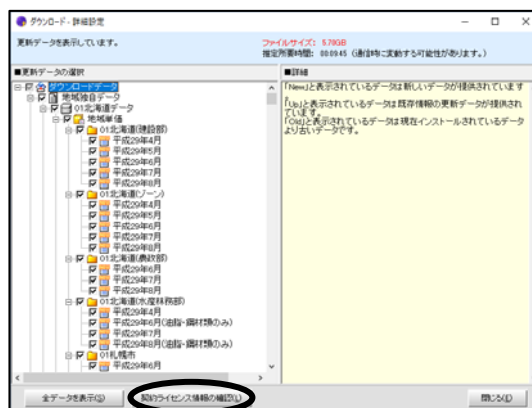
「ダウンロード－詳細設定」画面左下の[全データを表示]をクリックすると、「更新済みのデータのチェックは無効になります。よろしいですか?」のメッセージが表示されます。[はい]をクリックすると、「更新データの選択」ツリー内で設定したチェックは無効になり、全データが表示されます。


●契約済みの地域データを確認するには…

①「ダウンロード情報」画面にて、[詳細]をクリックします。

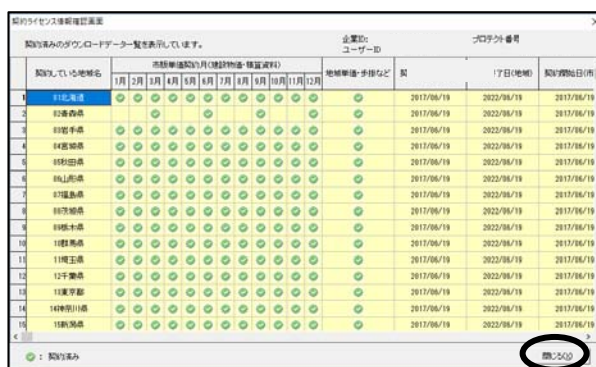


②「ダウンロードー詳細設定」画面にて、[契約ライセンスの確認]をクリックします。

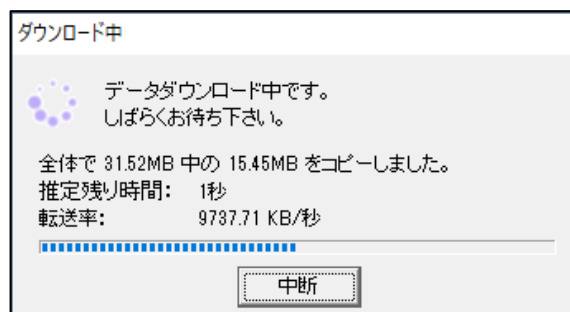


③「契約ライセンス情報確認画面」が表示されます。
契約済みの地域データには、 が付いています。

確認が終了したら、[閉じる]をクリックします。



⑥ダウンロードが開始されます。



更新オプションで「ダウンロード後、自動的に更新処理を実施する」にチェックを付けた場合、ダウンロード後、自動的にデータ更新が開始されます。

しばらくお待ち下さい。

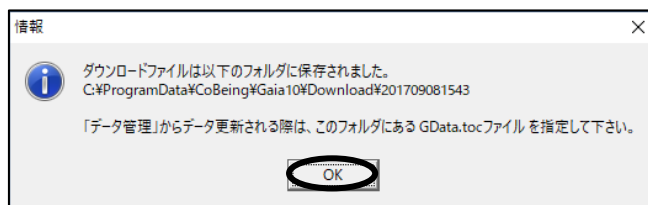
データ更新が完了すると、右のメッセージが表示されます。
[OK]をクリックして下さい。




●更新オプションで「ダウンロード後、自動的に更新処理を実施する」にチェックを付けていない場合

下図のようなメッセージが表示され、ダウンロードが完了します。

ダウンロードファイルが保存された場所とファイル名を確認し、[OK]をクリックします。



データ更新をする際は、[Gaia10 起動メニュー]－[データ管理]－[データを更新]－[ファイルから更新]より、保存したファイルを指定し、データの読込を行って下さい。

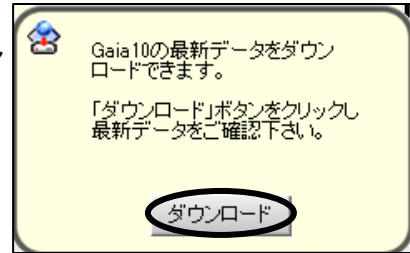
詳しくは、ツールバーの  をクリックし、ヘルプの「目次」タブ－「データ管理」－「データ更新」－「ファイルから更新」－「ダウンロードデータを読み込む(データの更新)」をご参照下さい。

●更新オプションで「更新完了後、自動的にシステムを BeingCabinet へ保存する」
「更新完了後、自動的にデータを BeingCabinet へ保存する」にチェックを付けた場合
データ更新完了後に、自動で BeingCabinet に保存されます。

◆Gaia10 起動時に、「Gaia10 の最新データをダウンロードできます。～」のメッセージが表示される場合

2回目以降ダウンロードを行う場合で、ビーイングのダウンロードサーバーに Gaia10 の更新データがアップされている場合、ダウンロードを促すお知らせメッセージが表示されます。

[ダウンロード]をクリックし、最新データをご確認いただき、必要であればダウンロード・データ更新を行って下さい。
(「工事名表」画面にて、ツールバーの[ダウンロード]をクリックでも同様です。)

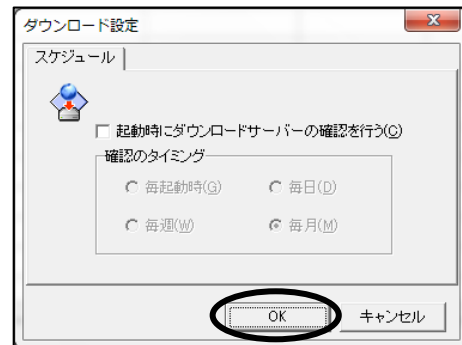


<お知らせメッセージの表示設定>

①「工事名表」画面にて、メニューバーの[サポート] - [ダウンロード] - [スケジュール設定]をクリックします。

②「ダウンロード設定」画面が表示されます。
起動時にダウンロードサーバーの確認を行うかどうかの設定、確認のタイミングの設定を行うことができます。

設定が終わりましたら[OK]をクリックします。



12. よくあるエラー

何らかの原因で予期せぬエラーが起きた場合、エラーメッセージが表示されることがあります。

発生箇所、エラーコード、詳細内容、システムバージョンを、弊社サポートまでご連絡下さい。

①発生箇所

エラーが発生した【画面名】[アプリケーション名]の順に表示されます。

②エラーコード

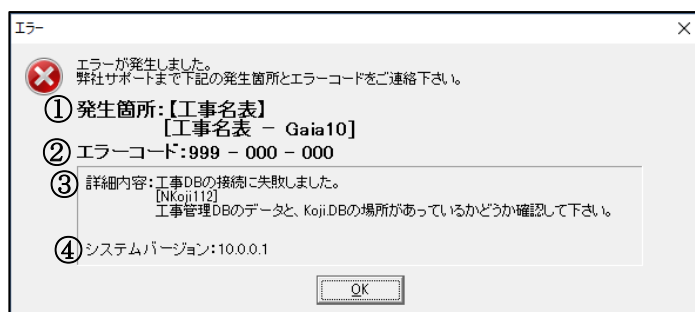
エラーの種類を9桁の数字で表します。

③詳細内容

詳細なエラーメッセージが表示されます。

④システムバージョン

現在、使用しているシステムのバージョンが表示されます。



■ コードからエラーの内容を確認する

以下の表に、主なコードをまとめました。トラブル解決の参考にして下さい。

コード	エラー内容	確認事項等
上3桁	エラーの種類を示します。	
064	本システムから Excel や Word 等の他アプリケーションの起動に失敗したことを示しています。	他アプリケーションがインストールされているかどうかをご確認下さい。
065	本システムから Excel や Word 等の他アプリケーションの起動はできたが、そのアプリケーション上での実行に失敗したことを示しています。	すでに他アプリケーションが起動していないかどうかをご確認下さい。
074	データベースが原因でエラーが発生していることを示しています。	中3桁、下3桁のコードでより詳細な情報を得ることができます。(下記の表以降を参照) ご確認のうえ、弊社サポートセンターまでご連絡下さい。
079	データベースが原因でエラーが発生していることを示しています。	中3桁、下3桁のコードでより詳細な情報を得ることができます。(下記の表以降を参照) ご確認のうえ、弊社サポートセンターまでご連絡下さい。
139	印刷フォームファイルの構成が正しくない可能性があることを示しています。	データインストールフォルダ¥Gaia10¥Forms 以下の構成が正しいかどうか等を確認するため、弊社サポートセンターまでご連絡下さい。

上3桁が「074」または「079」の場合は、以下も参考にして下さい。

コード	エラー内容
中3桁	上3桁が 074～081 の場合に 000 以外が表示されます。 エラーが発生している DB 名称や DB 内部の発生箇所を示します。
100～	工事管理 DB でエラーが発生していることを示しています。
200～	年度 DB でエラーが発生していることを示しています。
300～	パーソナル DB でエラーが発生していることを示しています。
400～	工事 DB でエラーが発生していることを示しています。
500～	歩掛 DB でエラーが発生していることを示しています。
600～	単価 DB でエラーが発生していることを示しています。
コード	エラー内容
700～	経費 DB でエラーが発生していることを示しています。
800～	マスタ DB でエラーが発生していることを示しています。
1100	ユーザーサポートの自動復旧ができなかったことを示しています。
下3桁	上3桁が 074～081 の場合に 000 以外が表示されます。 DB エラーの種類を示します。
035	読み込みに失敗しました。
071	キー違反です。
506	一般 SQL エラーです。

■ ダウンロード中のエラーの場合

コード	エラー内容	確認事項等
143	インターネットに接続できなかったことを示しています。(タイムアウト・ポートが閉じられている)	インターネットへの接続設定を再度ご確認ください。 接続時間に関して制限を設けていないか、ルータ等の設定をご確認下さい。
150	インターネットに接続できなかったことを示しています。(タイムアウト) SocketError#10060 SocketError#10065 等	
170	インターネットに接続できなかったことを示しています。(サーバーへの接続に失敗) SocketError#11004 SocketError#11001 等	ダウンロード中にインターネットへの接続が不安定になったり、途中で切断されなかったかどうかご確認ください。 接続時間に関して制限を設けていないか、ルータ等の設定をご確認下さい。
12007	インターネットに接続できない、または、DNS の設定が正しくない、または、Proxy の設定が正しくないことを示しています。	インターネットへの接続設定を再度ご確認ください。
12031	ダウンロード中に接続が切断されたことを示しています。	接続時間に関して制限を設けていないか、ルータ等の設定をご確認下さい。

13. ご使用時の注意事項

Windows で使用される場合の注意事項をお知らせします。制限事項等の最新情報は、弊社ホームページに掲載しておりますのでご確認ください。

- ◆Windows 環境を快適にご使用いただくため、コンピュータの搭載メモリは 2GB 以上を推奨します。搭載メモリが 2GB 未満の場合は、動作が遅いなど、Gaia10 のほか一部のソフトウェアが正常に動作しないことがあります。
- ◆Windows で Gaia10 をご使用される場合、Guest アカウントでログオンされると別のコンピュータにインストールした BeingCabinet に正常にネットワーク接続できない場合があります。Users 権限以上のアカウントを作成して使用されることを推奨します。

■ 製品の検証環境

●サーバー版

対応する「Windows」製品は以下のとおりです。

- ・Windows Server 2008 SP2 以上 日本語版 (*1)
- ・Windows Server 2008 R2 日本語版 (*2)
- ・Windows Server 2012 日本語版
- ・Windows Server 2016 日本語版
- ・Windows 7 日本語版 (Professional, Ultimate)
- ・Windows 8.1 日本語版 (Pro, Enterprise)
- ・Windows 10 日本語版 (Pro, Enterprise)

●クライアント版

対応する「Windows」の製品は、以下のとおりです。

- ・Windows 7 日本語版
- ・Windows 8.1 日本語版
- ・Windows 10 日本語版

(*1、*2 は Web Server を除く)

■Windows で起動に時間がかかる場合

BeingCabinet と Gaia10 が異なるコンピュータにインストールされている場合、Gaia10 を起動すると時間がかかる場合があります。

《該当する環境》

BeingCabinet と Gaia10 が異なるコンピュータにインストールされている場合

《現象》

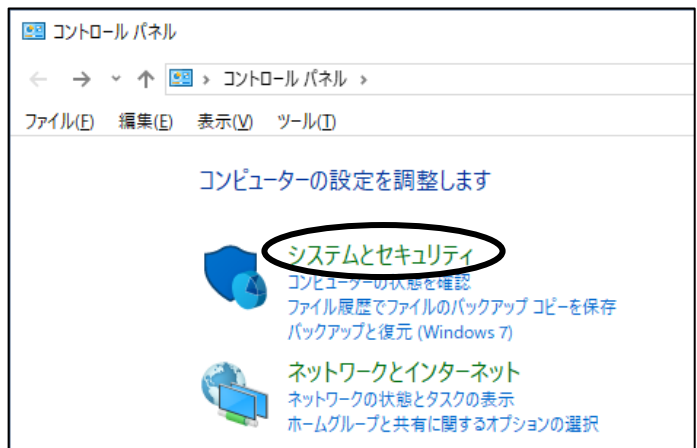
Gaia10 を起動すると、完全に起動するまで 30 秒程かかる。

《対処方法》

BeingCabinet と Gaia10 をインストールしたすべてのコンピュータで、以下の操作を行ってください。

①Windows の[コントロールパネル]から
[システムとセキュリティ]をダブルクリックします
([コントロールパネルを開く](#))。

「システムとセキュリティ」を開いた後、
[ネットワークと共有センター]をダブルクリックします。



②「ネットワークと共有センター」画面が表示されます。
「アクティブなネットワークの表示」の右側にある
[ローカルエリア接続](イーサネット)をクリックします。

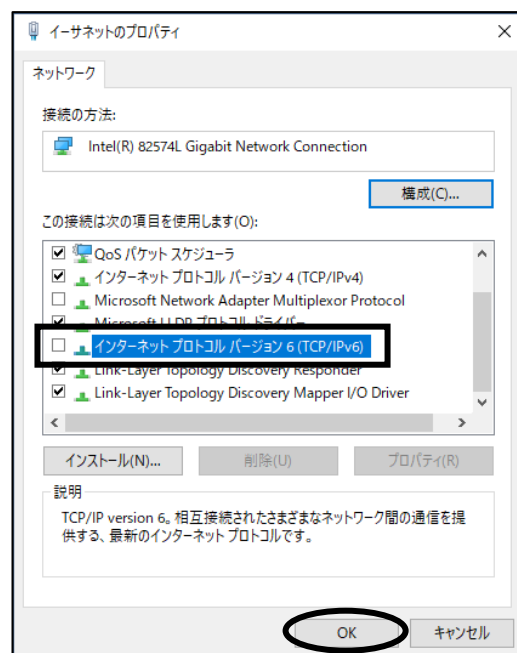


③「ローカルエリア接続の状態」画面にて、[プロパティ]をクリックします。



- ④「ローカルエリア接続のプロパティ」画面にて、「インターネット プロトコルバージョン 6 (TCP/IPv6)」のチェックを外します。

[OK]をクリックします。



- ⑤すべての画面を閉じ、Windows を再起動します。

1 4. BeingCabinet の使用について

Gaia10 ネットワーク版は、この BeingCabinet を使用して「キャビネットライセンス」を認識しています。

■ BeingCabinet をインストールすると…

BeingCabinet をインストールしたサーバー用コンピュータに、ネットワーク経由で接続できる環境であれば、BeingCabinet に保存されているデータを、Gaia10 をインストールしたコンピュータで共有することができます。
※BeingCabinet と同じコンピュータに Gaia10 をインストールしている場合も同様です。

- ・工事データをサーバー用コンピュータに保存し、他の Gaia10 サーバー、Gaia10 クライアント、Gaia10 スタンドアロン版と共有できます。
- ・単価、歩掛、損料、Excel 帳票、経費、発注者データを BeingCabinet に保存し、他の Gaia10 サーバーまたは Gaia10 スタンドアロン版にて、ダウンロードして使用することができます。
※Gaia10 クライアントは Excel 帳票、設計書入出力オプションの様式のみダウンロードできます。

- ①サーバー用コンピュータに、BeingCabinet をインストールします。
※BeingCabinet のサーバーと Gaia10Server 版のサーバーは同じである必要はありません。
BeingCabinet のインストール方法については、「BeingCabinet インストールマニュアル」をご参照下さい。
- ②Gaia10 サーバーをインストール時であれば、「インストールマニュアル BeingCabinet の設定」の手順にて、設定を行うことができます。
- ③Gaia10 サーバー、Gaia10 クライアント を起動すると、自動的に BeingCabinet に、更新データがないかどうかチェックを行います。

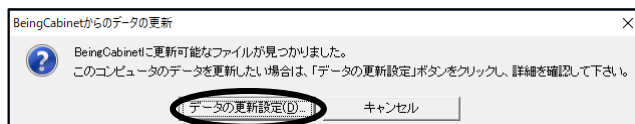
「Gaia10Server 起動メニュー」で、[積算][データ管理][ユーザー管理][経費エディタ][フォームエディタ]を選択した場合と、Gaia10 の[積算]を直接起動した場合に差分のチェックが行われます。

■ BeingCabinet に更新可能なファイルがない場合

起動メニューで選択した画面がそのまま表示されます。更新の必要はありません。

■ BeingCabinet に更新可能なファイルがある場合

右図のメッセージが表示されます。



＜データの更新を行う場合＞

[データの更新設定]をクリックします。
「最新データの更新」画面が表示されますので、更新したいデータを選択します。

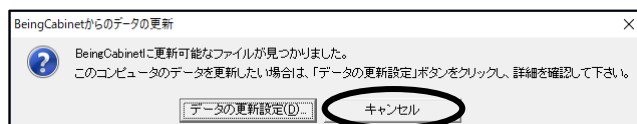
後述の「手順④」にお進み下さい。

Gaia10 クライアントでは、システム更新、Excel 帳票、設計書入出力のオプションの様式のみダウンロードできます。



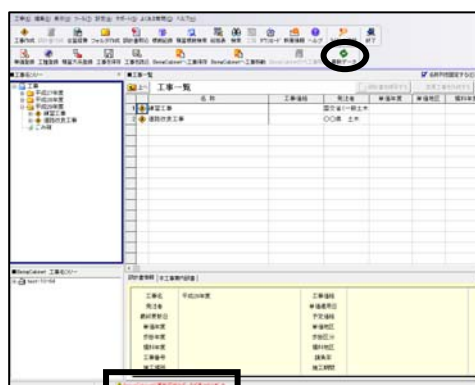
＜データの更新を行わない場合＞

[キャンセル]をクリックすると、データの更新を行いません。起動メニューで選択した画面が、表示されます。
※データの更新を行わない場合も、通常の作業を行うことができます。



◆データの更新を行わなかった場合

画面下のステータスバーに、「BeingCabinetに更新可能なデータが見つかりました。」と、お知らせが表示されます。

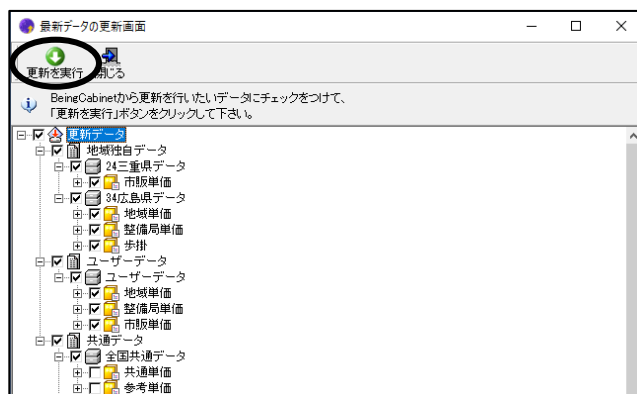


起動時にデータの更新を行わなかった場合でも、ツールバーの  をクリック、

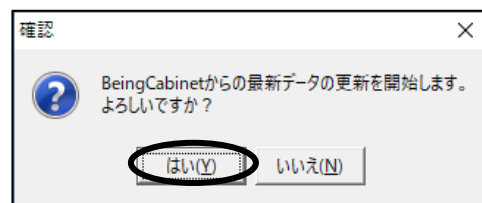
または、メニューバーの[ツール]－[BeingCabinet]－[BeingCabinet から最新データを更新]にてデータの更新ができます。

④BeingCabinet とお使いのパソコンのデータを比較し、差分があるデータには、自動的にチェックが付きます。

更新を行うデータを確認し  をクリックして下さい。

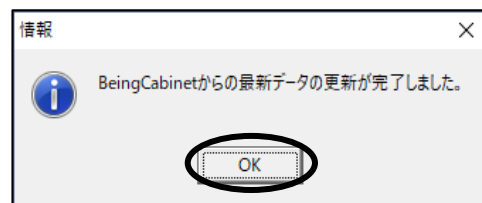


右図の画面が表示されます。
よろしければ[はい]をクリックして下さい。



データの更新が開始されます。更新するデータの量によっては時間がかかる場合があります。

すべてのデータの更新が完了すると、右図の画面が表示されます。
[OK]をクリックし、終了して下さい。



◆BeingCabinet へデータの保存

BeingCabinet へデータの保存をすることもできます。BeingCabinet へデータを保存しておくこと、他のコンピュータとのデータの共有が、簡単に実現できます。

「Gaia10 起動メニュー」で[積算]もしくは[データ管理]を起動、または、データ更新後に BeingCabinet へデータの保存をすることができます。

BeingCabinet へのデータの保存方法については、ヘルプ「目次」タブ「積算を行う」-「工事名表」-「BeingCabinet 書庫サーバー」-「BeingCabinet 連携」-「工事名表から更新データを BeingCabinet 書庫サーバーに保存する」および「データ更新ツールから更新データを BeingCabinet 書庫サーバーに保存する」をご参照下さい。

15. インターネットプロテクトについて

■お客様ご契約情報について

工事名表の[サポート]-[BeingWeb ページ]-[お客様ご契約情報]をクリックすると、「お客様ご契約情報」が表示されます。

お客様ご契約情報では、


- ライセンス情報の確認
- メールアドレスの設定
- パスワードの変更

が行えます。

※お客様契約情報にログインするには、商品に同梱されている「企業 ID」「ユーザーID」「パスワード」が必要です。

■ライセンスの返却について

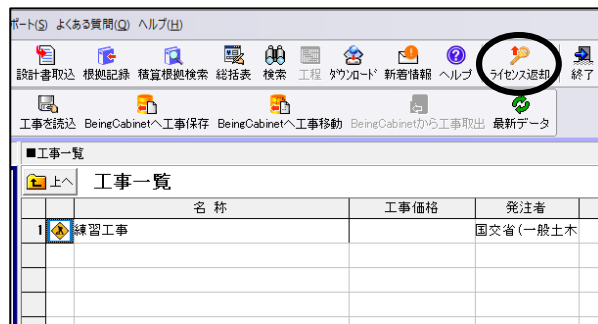
ライセンスを返却するには、Gaia10 を起動し、

工事名表のツールバーの  をクリックします。

(工事名表メニューの[工事]－[ライセンスを返却して終了]
をクリックでも同様です。)

返却したライセンスは他のコンピュータで使用できます。

次回起動時は、インターネットに接続し、空きライセンスを取得することにより起動できます。



- ・ライセンスを占有したままコンピュータが故障した場合は、強制返却を行います。
強制返却は、「お客様ご契約情報」の「ライセンス情報」より行って下さい。

※「お客様ご契約情報」は、工事名表の[サポート]－[BeingWeb ページ]－[お客様ご契約情報]をクリックすると、表示します。

※お客様ご契約情報にログインするには、商品に同梱されている「企業ID」「ユーザーID」「パスワード」が必要です。